

# バックガイドセンサー BGS291 取付説明書



日本国内専用



汎用製品



12V車専用

このたびはデータシステム製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

- 取付説明書・取扱説明書と保証書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。本製品取り付け後も大切に保管し、必要な時にお読みください。
- 保証書は、「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

## 注意事項の定義について

注意事項は「**危険**」、「**注意**」、「**重要**」に区分しており、それぞれ次の意味をあらわします。

|           |                                   |
|-----------|-----------------------------------|
| <b>危険</b> | 守らないと、死亡や重傷などの重大な結果に結びつく可能性が高いもの  |
| <b>注意</b> | 守らないと、車両および製品を破損、または故障させるおそれがあるもの |
| <b>重要</b> | 本製品を使用する上で知っておいていただきたいこと          |

## 注意事項

### 危険

- 取り付け作業前に、必ずバッテリーマイナス端子を外して車両側の電源を遮断してください。電源を遮断しない状況での取り付けは、ショートや感電など重大事故につながります。但し、バッテリーマイナス端子を外す前にオーディオ機器などの設定内容をメモしておき、取り付け完了後に再入力してください。入力方法は機器の取扱説明書をご参照ください。

### 注意

- 本製品の本体及びディスプレイは必ず車内に設置し、水がかかる場所、水の溜まる可能性のある場所には絶対に設置しないでください。本体やディスプレイは防水ではありませんので水に濡れると故障・破損します。
- 本体及びディスプレイは必ず付属の両面テープ等で車両側に固定してください。固定しないとケーブルやハーネスに負担がかかり断線、接触不良を引き起こす恐れがあります。
- コネクタを接続するときは、奥まで確実に差し込んでください。
- 配線部分は絶対に引っ張らないでください。断線、接触不良を引き起こすおそれがあります。

### 重要

#### 【一般的な事項】

- 本製品は、日本国内で車検を受けた車両専用設計された製品であり、弊社が認める適合車両以外への取り付け、および日本国外での販売や使用を禁止しています。以上の内容に反する行為に対し、弊社は一切の責任負いません。
- 製品の取り付けは、必ず専門の知識・設備のある取扱業者でおこなってください。
- 適合外の車両に取り付けて使用した場合、本製品の保証はすべて無効となり、本製品に関するすべての事柄に対して弊社は一切責任を負いません。また、適合外の車両に対する装着に関するサポート、および製品本来の使用目的以外の使用に対する動作保証およびサポートは一切致しません。
- 本製品の取り付けは、本書をよくお読みいただいた上でおこなってください。誤った配線の接続は車両の故障・破損やヒューズ切れなどが発生するおそれがあります。
- 本体・ディスプレイ・各ケーブルおよび配線類は、シートレールやベダル・ドアなどに噛み込まれたり、挟まれたりする可能性のある場所には設置しないでください。製品破損やハーネス断線・ショートの原因となります。
- 本製品は取り付けに車両側の穴あけ加工が必要になりますので取り付け作業は慎重におこなってください。いかなる場合においても作業工賃・バンパー修理代などは一切補償いたしませんのでご注意ください。

#### 【取り付けできない車両について】

- ボディ振動の大きな車両や金属製バンパー装着車両には取り付けないでください。センサーが誤動作するおそれがあります。
- 取り付けをおこなう前に、バンパーを取り外して、バンパー内側～ボディ間に47mm以上の隙間があることを確認してください。十分な隙間が確保できない場合は本製品を装着できません。
- バンパー内側から車内にケーブルを通せる穴を探してください。この穴を確保できない場合は本製品を装着できません。

#### 【超音波センサーについて】

- 下記のような自然条件や路面条件によりセンサーが影響を受け、本製品が正常に動作しない場合があります。  
強い雨/濃い霧/高温時/極寒時/凹凸の激しい路面/草などが生えている場所/傾斜した路面/フェンス/金網/踏み切り付近や有料駐車場など、超音波センサーを使用している場所
- 障害物が以下のような形状・材質の場合、反応しにくいまたは反応しない場合があります。  
小さな障害物/表面が丸い物体(円柱・球状のもの)/布や綿など超音波を吸収する材質/センサーに対して直角に近い向きで当たらない障害物
- 必ず仮装着をおこない、すべてのセンサーが正常に機能することを確認してから、本装着をおこなってください。
- バンパー内側にレインフォースなどの鉄板が入っている場合は、鉄板も同時に穴を開ける必要があります。ただし、ボディ剛性に関わる金属部分の穴あけはおこなわないでください。
- センサーは、マフラーからなるべく離れた位置に装着してください。マフラー近辺に装着すると、熱の影響により誤動作・センサー変形・配線溶解およびショートなどの不具合が発生する場合があります。また、バンパーの段差などによりセンサーが発する超音波がさえぎられるような位置には装着しないでください。
- センサーは、必ず地面から55cm以上離れた位置に装着してください。地面から55cm未満の位置に装着すると、センサーが地面に対して反応してしまい誤動作の原因となります。また、超音波照射部分(センサー正面中央部)が必ず水平を向くか、または若干上を向くように装着してください。超音波照射部分が下向きになると、地面に反応しやすくなり誤動作の原因となります。
- ワンボックスやワゴン車などカーゴスペースに重い荷物を載せる可能性がある車両に装着する場合、センサー装着位置を若干高めにしてください。規定の高さにセンサーを装着した場合、荷物の重量によってはリアの車高が下がり、センサーが地面に対して反応してしまうことがあります。
- センサーを塗装する場合、メタリック系など金属粉入り塗料はセンサー誤動作の原因となりますので使用しないでください。
- 本製品に同梱されているセンサーと、別売品のセンサー以外は一切使用できません。
- センサーのコードを取り回す際は、できるだけ車両側の配線類から離してください。車両側配線付近に取り回した場合、車両側のノイズの影響を受け、センサーが誤反応する場合があります。
- センサーのケーブルは延長できません。本体・センサーの装着位置を事前によく確認してから取付作業をおこなってください。

## 保証について

- 付属の保証書に必要事項をすべてご記入ください。特に販売店印およびご購入日の記入がない場合、保証書は無効となります。保証期間を有効にするために、必ずユーザー登録をおこなってください。
- ※保証期間はご購入日を含めて「1年間」となります。
- ※ユーザー登録をおこなわない場合、保証期間は無効となります。
- ※保証規定は保証書をご参照ください。
- ※保証書はいかなる理由があっても再発行いたしません。あらかじめご了承ください。
- ※本製品に貼付している封印シールをはがさないでください。はがした場合、保証期間に関わらず保証対象外となります。

## 保守部品の保有年数について

この製品は、補修部品の入手性、修理後の性能保証の観点から、修理対応期間(保守部品の保有年数)を製造打ち切り後、6年間に設定しています。  
※修理対応期間は目安であり、実際の期間は若干異なる場合があります。修理対応期間(保守部品の保有年数)を終了している製品については、修理のご依頼をお受けできない場合があります。

Data System 株式会社 データシステム

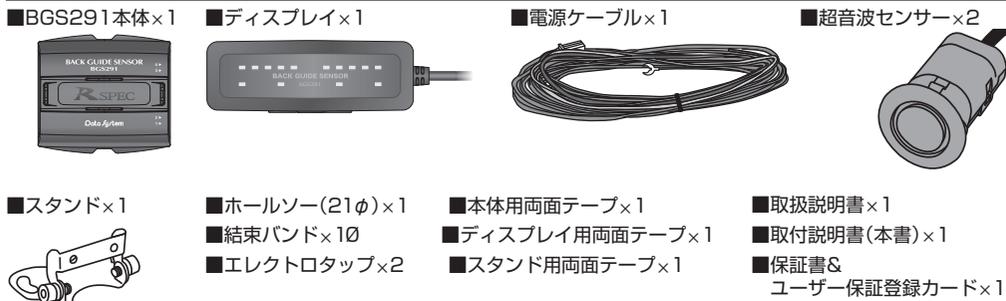
<http://www.datasystem.co.jp/>

■ [ 本 社 ] 東京都新宿区新宿 1-18-2    ■ [倉敷支社] 岡山県倉敷市神田 1-1-11

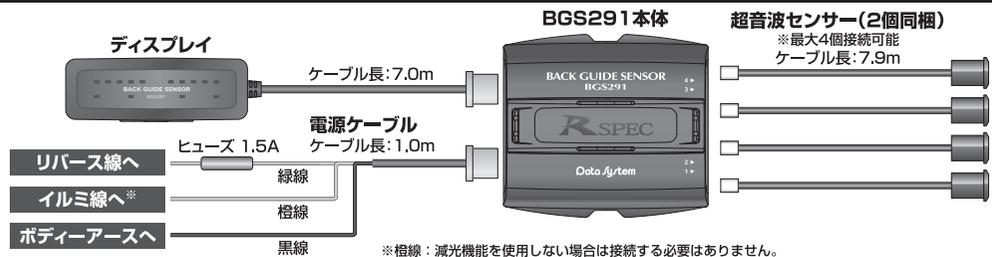
本書は著作権法で保護されています。取扱(取付)説明書に記載の一部、または全部(デザイン含む)を(株)データシステムの許諾・許可なしに無断で転用・複製・改変・掲示・頒布・販売・出版などおこなうことを固く禁じます。

BGS291inst-2307-AN

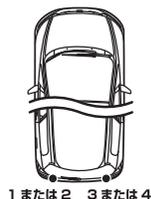
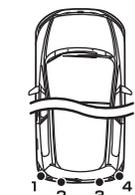
## 内容物一覧



## 接続概要図



### BGS291本体 センサー接続端子部



#### ■センサーを4個接続した場合の表示



#### ■センサーを2個接続した場合の表示



・本体の2と3に接続した場合



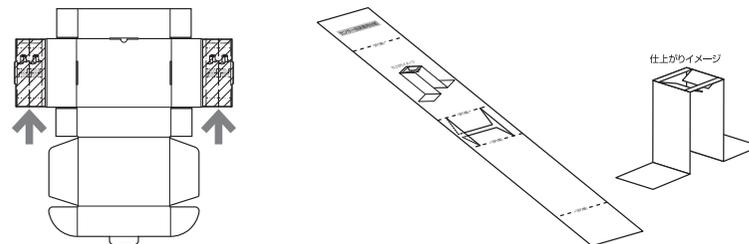
※別売の追加超音波センサーを含めています。  
 ※取り付け場所に関わらず、超音波センサーはすべて同じです。お好みの場所に超音波センサーを取り付けてください。

**重要** ●センサー動作とディスプレイ表示の整合を取るため、必ずセンサー位置とセンサー接続端子部の番号を一致させてください。

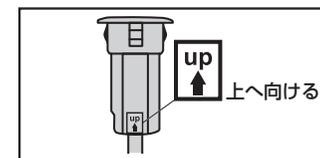
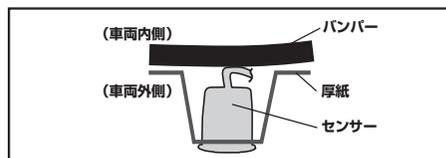
## センサー取り付け方法

### 1. 仮装着(バンパーに穴をあける前に必ずおこなってください)

1. 本製品のパッケージを展開してセンサー仮装着用台紙を切り取り、図の形に折り曲げます。



2. センサーを通します。
3. 養生テープなどを使用して、台紙の両端をバンパーに貼り付けます。
4. 「使いかた」をご参照の上、センサーが正常に反応するかどうかご確認ください。
5. センサーが正常に反応することが確認できましたら本装着をおこなってください。



※センサーが車体後方を真っ直ぐに向き、バンパーにしっかりと接触するように貼り付けてください。

※センサーは「UP」マークを上へ向けてください。

#### ■センサー装着位置の条件■

- ・地面より55cm以上80cm以下の高さ
- ・リアバンパーに装着するセンサーは等間隔

## 2. 本装着

### ■バンパー穴あけ前の確認■

穴あけ作業前に、次のことを確認してください。

- バンパーとボディの間に47mm以上の隙間があるか  
 …十分な隙間が確保できない場合は、本製品を装着できません。
- ケーブルを車内に通す穴があいているか  
 …ケーブルを車内に通すことができない場合、センサーを装着できません。
- バンパー内側にレインフォースなどの鉄板が入っている場合  
 …バンパーだけでなく、鉄板にも穴開けが必要です。  
 ただし、ボディ剛性に関わる金属部分の加工は、絶対におこなわないでください。

### ■バンパー穴あけ方法■

1. センサー装着位置を決めます。センサーが水平を向くか、または若干上を向くような位置を選んでください。
2. センサー装着位置に21φの穴を開けます(図1・図2)。
3. センサーの「UP」マークを上へ向け、穴に通して固定具を確かめます。ガタつきがある場合は、センサーにビニールテープなどを巻いて固定させます。

